

2015年5月27日

<報道関係各位>

一般社団法人日本化学工業協会

化学企業の環境・安全活動を表彰する第9回日化協レスポンシブル・ケア賞各賞が決定 株式会社ダイセル 生産技術本部教育訓練センターを大賞に選定 ～プロセス産業における技能伝承・教育訓練～

一般社団法人日本化学工業協会(住所:東京都中央区、会長:小林 喜光(株)三菱ケミカルホールディングス会長)、以下「日化協」は、本日、第9回日化協レスポンシブル・ケア賞(RC賞)の受賞者を選定しました。

化学業界は、化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費、廃棄に至る全ライフサイクルにおいて、自主的に「環境・安全・健康」を確保し、成果を公表し、社会との対話を行う活動、レスポンシブル・ケア(以下、RC)を推進しています。日化協では、化学業界のRCの更なる発展、拡大を図るため、優れた功績あるいは貢献をした事業所、部門、グループまたは個人を毎年表彰するとともに、優れた活動の会員間への共有を行っています。なお、9回目を迎える本年より、活動意欲の向上を目的に、RC審査員特別賞を新たに設定しました。

【RC大賞】(1件)

株式会社ダイセル 生産技術本部 教育訓練センター

テーマ: 「プロセス産業における技能伝承・教育訓練」

受賞者: 福西邦男、原野嘉行、角正寛、内山敦、渡邊弘、倉俣修一、森本義昭

活動: ベテランのノウハウや技能をシステム化し誰もが活用できるようにすることで、安全・安定運転や生産性・品質の向上等の効果を目指す「ダイセル式生産革新」の定着・維持のため「教育訓練センター」を開設し、活用してきた。同センターでは、各階層のオペレーターに「知識」「経験」「行動」の3要件を習得させる訓練に加え、技術者、生産関連管理職や学生などの外部者までを対象とした多くのカリキュラムを用意し、受講者は2002年の開設以来約4,000人に達している。

【RC審査員特別賞】(本年より新設 2件)

住友化学株式会社 レスポンシブルケア室 RC監査G

テーマ: 「住友化学のレスポンシブル・ケア監査改革」

受賞者: 相原正和、佐藤邦久、佐藤潤、佐々木直行、中野一美

活動: RC監査Gが蓄積してきた組織横断の情報や安全・保安・環境・品質など現場が蓄積してきた領域横断的情報を総合的に活用したレスポンシブル・ケア監査の抜本的な改革に取り組んだ。これにより、従来の管理システムのチェックとしての監査をはるかに超える、潜在リスクの発見、監査後の改善、課題解決に向けた技術支援、さらに人材育成の機能を加えた監査に変貌した。

三井化学株式会社 RC・品質保証部

テーマ: 「関係会社へのRC活動の展開」

受賞者: 松本規雄、三橋智子、荒柴伸正、張潤北、小出哲裕、森本勉、伊藤佳行、渡辺晃彦、石川聡、半沢昌彦、鈴木賢司、土肥誠太郎

活動: RCのグローバル化実現のために、グループ全体のRC活動を統括する体制を明確化し、活動分野ごとに所管部署が主導して取組方針や目標を設定、国内外の関係会社に展開している。活動のパフォーマンスの把握に留まらず、分野ごとに支援策を策定し、継続的な改善を進めている。また、2014年度は、改訂RC世界憲章に対する社長のコミットメントの関係会社への浸透も図った。

【RC優秀賞】(3件)

花王株式会社

テーマ: 「地震対策の取り組み」

受賞者: 四十物清、佐々木義雄、村井智明、曾維平、岡宏和、平野清

活動: 2001年度より建屋の耐震補強、高圧ガス設備・危険物貯槽(特定タンク)の液状化対策、危険物・毒劇物取扱設備からの漏洩対策を実施しており、工場の安全/安定生産に貢献している。

旭硝子株式会社 化学品カンパニー 人財育成グループ

テーマ: 「安全実技研修のアジアへの展開」

受賞者: 玉川徹、田中清、平岡正司

活動: 独自の安全実技教育を開発し、国内主要工場に定着させた後、内容を充実・発展させてきた。さらに、当安全実技教育の海外関係会社への展開に注力した結果、インドネシアの関係会社では独自の安全文化が根付き、地域の模範となっている。

三菱化学株式会社 水島事業所

テーマ: 「工事協力会社と一体となった安全活動とその成果」

受賞者: 亀山高広、幸靖、大森勇

活動: 協力会社各社責任者と事業所幹部等との密な情報共有や第一線の作業者にまで至る各種教育など地道な活動の継続により協力会社のゼロ災継続日数は1,100日を超えた。2013年度には4年に一度の大規模な定期修理を「KAITEKI定修」と位置付け、同社と協力会社との協奏、ステークホルダーの満足度向上を目標に掲げ、無災害で完遂した。

【RC努力賞】(5件)

JSRオプテック筑波株式会社

テーマ: 「JSRオプテック筑波(株)における産業廃棄物削減活動」

受賞者: 弓削進、横田保、飯田正俊、岩崎誉幸

東ソー株式会社 南陽事業所

テーマ: 「若手従業員による自主RC活動(TRY!)」

受賞者: 手代木洋一、樽沼紗也佳、伊藤沙織(他17名)

日産化学工業株式会社 埼玉工場

テーマ: 「地域住民との交流事業継続」

受賞者: 斎藤泰則、眞壁孝裕、坂田英雄

デュポン株式会社 サステナビリティ キャンペーンチーム

テーマ: 「サステナビリティ キャンペーン」

受賞者: 斎藤和邦、持田伊佐人、鈴木裕子、末富勉、田中寛、中園督

株式会社日本化薬福山

テーマ: 「安全確保の基本:『指差呼称』の定着に向けて」

受賞者: 岸戸弘樹、木和田孝、昼田雅之、竹井芳尚、塚本修

なお、5月28日(木)にパレスホテル東京(東京都千代田区)において開催する『日化協シンポジウム2015』でRC大賞、RC審査員特別賞およびRC優秀賞受賞者による受賞講演を行い、その後第24回定時総会で各賞受賞者の表彰式を執り行う予定です。

＜ご参考＞

【日化協レスポンシブル・ケア(RC)賞選考基準】

- ・ RCの6本柱(保安防災、労働安全衛生、環境保全、コミュニケーション、化学品・製品安全、物流安全)に関する活動で顕著な成績を残したもの
- ・ 企業内のRC活動の推進にあたり、率先して実施し、顕著な貢献のあったもの
- ・ RCの海外活動に貢献したもの

【レスポンシブル・ケアとは】

地球環境問題や工業化地域の拡大などによる「環境・安全・健康」に関する問題の広がり、また、技術の進歩により発生する新たな問題等に対して、化学物質に関する環境・安全・健康を規制だけで確保していくことは難しくなっています。化学製品を扱う事業者が、環境・安全・健康を確保していくために責任ある自主的な行動をとることが今まで以上に求められる時代となっています。

こうした背景を踏まえて、化学業界では、化学物質を扱うそれぞれの企業が化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄に至る全ての過程において、自主的に「環境・安全・健康」を確保し、活動の成果を公表し社会との対話・コミュニケーションを行う活動をしています。この活動を“レスポンシブル・ケア”と呼んでいます。

レスポンシブル・ケアは1985年にカナダで誕生しました。1989年に国際化学工業協会協議会(ICCA)が設立され、レスポンシブル・ケアを通じた安全・環境の向上への取組と社会との対話を所属各国協会が協力して行うとともに、レスポンシブル・ケアを途上国等に普及する活動を行っています。今やレスポンシブル・ケアは、世界58の国と地域(2015年5月)で展開されています。

【日化協レスポンシブル・ケア委員会とは】

日本では1995年、化学物質を製造または取り扱う企業74社が中心となり、日化協内に日本レスポンシブル・ケア協議会(JRCC)を設立し、それまで各企業が独自に行っていた環境・安全配慮の活動を統一・活発化し、社会の理解を深めていくこととしました。そして、2010年5月にJRCCは日化協レスポンシブル・ケア委員会(RC委員会)となり、2015年5月現在の会員は111社となっています。